

(案)

資料 1

令和 5 年（2023 年）3 月 27 日
第 7 回川越市介護保険事業計画等審議会

会 議 要 旨

会 議 の 名 称	第 6 回川越市介護保険事業計画等審議会
開 催 日 時	令和 4 年 1 1 月 1 0 日（木） 1 4 時 0 0 分 開 会 ・ 1 5 時 3 0 分 閉 会
開 催 場 所	川越市医師会館 4 階講堂 A～C
議 長	齊藤正身会長
出 席 委 員	池浜委員、樋口委員、中野委員、吉敷委員、田畑委員、片野委員、 宮山委員、川越委員、菊池委員、平島委員、荻野委員、佐藤委員、 入江委員、長峰委員、芝波田委員、村田委員、米原委員、横田委員、 粕谷委員（19 名）
欠 席 委 員	小林委員、中原委員
事 務 局 職 員	福祉部 近藤部長 高齢者いきがい課 坂口課長、内門副課長、忽滑谷副主幹 介護保険課 奥富参事、内田副課長、佐藤主幹、 円城副主幹 健康づくり支援課 後藤課長、有馬主幹 地域包括ケア推進課 富田課長、渡辺副課長、内藤副主幹、 関根主査、飯田主任、石川主事
配 布 資 料	1 次第 2 資料 1 第 5 回川越市介護保険事業計画等審議会会議要旨 (案) 3 資料 2 令和 4 年度介護サービス事業所等実態調査等 集計報告（抜粋） 4 資料 3-1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等の調査項目 について 5 資料 3-2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、保健・福祉 等実態調査 調査項目（案） 6 資料 3-3 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査へのご協力の お願い 当日配布資料 7 資料 3-3 ① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査へのご協力の お願い 8 資料 3-3 ② 保健・福祉等実態調査へのご協力のお願い 9 資料 3-3 ③ 保健・福祉等実態調査【介護保険認定者】への ご協力のお願い 10 資料 3-4 オンライン回答もご利用できます

	<ul style="list-style-type: none">11 参考資料1 川越市在宅生活改善調査等報告（未定稿）12 チラシ 健康体操フェスタ13 パンフレット ご活用ください地域包括支援センター
--	--

議 事 の 経 過

	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ 会長あいさつ</p> <p>3 報告</p> <p>(1) 第5回川越市介護保険事業計画等審議会について</p>
事務局	<p>【資料1】を基に事務局より報告。</p> <p>資料1[第5回川越市介護保険事業計画等審議会会議要旨(案)]の10ページ目の4「特別養護老人ホームの定員と入所者の状況等」の待機者(申込者数)を319人と記載しているが、364人に訂正する。</p>
会長	事務局からの説明に対して質問はあるか。
委員	<p>資料1[第5回川越市介護保険事業計画等審議会会議要旨(案)]の11ページ目の(6)に、オンライン形式で開催した事業が記載されているが、前回の資料によると認知症サポーター養成講座もオンライン開催の実績があるので、それも記入した方が良い。</p> <p>オレンジカフェについて、前回の資料には飲食を伴わない形式で開催方法を協議するとの記載があったが、飲食を伴わない形式での開催とはどのようなことか。</p>
事務局	飲食を伴わないおしゃべり・歓談で開催している。
委員	それも記入した方が良い。
事務局	修正する。
会長	他にはいかがか。
委員	資料1[第5回川越市介護保険事業計画等審議会会議要旨(案)]の10ページ目の4、特別養護老人ホームの定員と入所者の状況等の待機者(申込者数)には重複も含まれているか。
事務局	重複を消し込んだ後の実数である。
会長	会議要旨を見て気になる点あれば、事務局に伝えてほしい。

事務局	<p>(2) 介護サービス事業所実態調査等について 【資料2、参考資料1】を基に事務局より報告</p>
会長	<p>事務局からの説明に対して質問はあるか。</p>
委員	<p>資料2[令和4年度介護サービス事業所等実態調査等集計報告(抜粋)]の2ページ目の視点2について、施設整備の他に施設の中の備品の整備も必要ではないか。その理由としては、この資料を読むと排泄の問題が出ている。また資料3-2[介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、保健・福祉等実態調査調査項目(案)]の9ページ目のNo.111の選択肢7では、居住環境が整っていない(手すりの設備、介護が必要な状況・状態でも利用できるトイレ、お風呂等)とある。このことからすると、便器そのものに機能が付いているような便器を設置することも考えられる。</p>
事務局	<p>施設を整備するだけではなく、ソフト的な側面も含めて、色々な考え方があると思う。これから現場の意見等を聞く機会を設けていきたいと考えているので、そういった機会に今の意見も聞いてみたい。</p>
会長	<p>現場の声を直接反映させた方がより具体的になると思う。他にはいかがか。</p>
委員	<p>資料2[令和4年度介護サービス事業所等実態調査等集計報告(抜粋)]の15ページ目等、在宅生活が困難になる理由として本人と家族間の関係に課題ある割合が高いと感じている。今後、家族がいても大変な方や、家族に任せることが難しい方も出てくるのではないかと感じた。また、団塊の世代は若い時から意識が高い方が多いように感じるので、そのような方への考え方も検討する必要があるのではないかと感じた。</p>
会長	<p>他にはいかがか。</p>
委員	<p>資料2[令和4年度介護サービス事業所等実態調査等集計報告(抜粋)]の16ページ目と18ページ目はそれぞれ要介護2以下と要介護3以上で分析されていて統計的に数が少ないが、仮説を立てるためには意義深い。そこで分析の仕方について、どのように16ページ目と18ページ目の分析を進めたのか。</p>
事務局	<p>国の集計ツールを使っている。16ページ目の右端、特養待機者にはケアマネジャーがその方に対して必要なサービスが特養だけと回答した方が入る。同様にその他施設等の待機者には、特養とそれ以外の施設を回答した方</p>

	と、特養以外の施設を回答した方が入る。在宅サービス待機者には、在宅サービスで改善可能と回答した方が入る。これを、要介護2以下と要介護3以上で分けて集計ツールに入力した。
委員	調査対象として95名と52名を最初に抽出してから分析したのか。
事務局	その通りである。それぞれ別に仕分けをした。
会長	他にはいかがか。
委員	最終的には対策をどうするかが一番大事なことだと思う。今回は4466名が対象で、内訳は自宅が4172名、サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームが294名。そのうち、現在のサービス利用では、生活困難者が150名いた。その150名の中、独居の方が63名で約42%。サ高住を含めた在宅で生活している方の中で生活困難と回答した方は約3.36%いたと明らかにしておくが良い。それと、要介護度別での生活困難者の割合を出しておいた方が良い。たとえば要介護1の人が何人在宅にいて、そのうち何人が在宅生活困難か見ていくと、要介護度別の割合が見えてくる。それと、独居と独居以外も分けておくが良い。生活困難者のうち、独居の人が約42%占めている。独居の人と独居でない人では支援する用件が違うかもしれない。在宅生活を困難化させる特徴はどこか、層に分けて分析をすると誰を対象にどのようなことをしなくてはいけないのか見えてくる。問題は、要介護1、2の厳しい方の支援をどうするか、要介護3以上で特養に入れる方の支援をどうするかを分けて考えないといけない。
事務局	次回、集計して報告する。
会長	他にはいかがか。
委員	資料2[令和4年度介護サービス事業所等実態調査等集計報告(抜粋)]の10ページ目の2つ目の黒丸では、サ高住と住宅型有料について書いてあるが、グラフを見ると一番多いのが特別養護老人ホームとなっている。なぜこの文面に特養の記載がないのか。 16・18ページ目でケアマネジャーが生活の改善に必要なサービス変更が特養だけと判断した根拠は何か。 23ページ目の最後の項目、「要介護2以下の方は～」の文章について分かりにくいので説明してほしい。また、「介護等技術」というのは具体的にはどういうことか。

事務局	<p>10ページ目は、在宅生活を継続するという視点で集計しており、特養に入ると在宅生活ではなくなるため、施設のことはここではコメントはしていない。</p> <p>16ページ目と18ページ目の表の特養待機者については、在宅生活維持が難しい方の生活を改善するには今後どういったサービスが良いかという設問項目に対して、ケアマネジャーが特養のみを選択した方の人数となっている。グループホームと特養というように複数回答もできるが、その場合は、その他施設等の待機者に分類している。</p> <p>23ページについては、先ほど、他の委員からも指摘があったように、クロス集計する中でサンプル数が少なく、誤差が大きいと思われるグラフもある。このため、今後、実施を予定している調査の結果も踏まえて複合的に見て、慎重に結論を出したいという意図である。</p>
委員	<p>10ページ目は、なお書きでサ高住と住宅型有料について書いてあるが、なぜか。</p>
事務局	<p>サ高住と住宅型有料は自宅扱いになるため、あえて「なお」という言い方で付け加えた。</p>
会長	<p>資料2[令和4年度介護サービス事業所等実態調査等集計報告(抜粋)]については、色々と質問はあると思うが、皆で資料を作っていくのが審議会の目的だと思うので、皆で良い意見をまとめ、良い文章にしていきたいと思う。このような方向で今後進めていくことで良いか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
	<p>4 議事</p>
事務局	<p>(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等 について 【資料3-1～資料3-4】を基に事務局より報告</p>
会長	<p>事務局からの説明に対して質問はあるか。</p>
委員	<p>資料3-2[介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、保健・福祉等実態調査 調査項目(案)]の7ページ目のNo.86について、生涯現役という言葉があるので、選択肢に就業や仕事を加えた方が良い。</p> <p>No.87の選択肢について、「衣類着脱・食事・入浴など」の「など」を消して排泄を入れて、「衣類着脱・食事・入浴・排泄」としてはどうか。</p>
事務局	<p>No.86の選択肢について、就労は健康維持に繋がると考えられるため追加</p>

	<p>する。また、No.87の選択肢についても、排泄は事業所調査の中にも記述があるので、こちらも文言調整を行う。</p>
会長	<p>日常生活動作は排泄だけではないので、「など」を取ることにしても、上手く整理して作り直してほしい。他にはいかがか。</p>
委員	<p>資料3-3①[介護予防・日常生活圏域ニーズ調査へのご協力のお願]の2ページ目について、要介護認定を尋ねるところで、前回の第8期の調査結果では無回答が多かったと記憶している。無回答が多いとその後の分析で支障があるので、無回答を出来るだけ少なくする工夫が出来ると良い。</p> <p>1ページ目の調査対象者の説明に「要介護認定」とあるが、要介護1～5だけなのか、要支援も含むのか分かりにくい。そこでも回答しにくくなっている可能性がある。調査対象者は、要介護1～5以外の方ということで良いか。2ページ目の下に欄があるが、ここにも「今、変更中の人は直近のもので答えてください」等、説明があると良い。</p>
会長	<p>1ページ目は、要介護1～5の認定を受けていない方としたら良いということか。</p>
委員	<p>その方が分かりやすいと思う。</p> <p>資料3-3①[介護予防・日常生活圏域ニーズ調査へのご協力のお願]の1ページ目の無作為抽出の8624名について、人数の設定根拠をお聞きしたい。</p> <p>2ページ目の設問について、前回は無回答がなぜ多かったか、市で振り返りはあるか。</p>
事務局	<p>資料3-3①[介護予防・日常生活圏域ニーズ調査へのご協力のお願]の1ページ目の対象者は、「要介護1～要介護5以外の方」と修正する。2ページ目については、注釈を付ける形で説明を加えたいと考えている。</p> <p>人数の設定については、国が示すサンプル数があり、各日常生活圏域において400件程度とされている。令和元年度の調査回答率が約65%のため、圏域あたり400件の回答を得るためには、610件～620件が必要となり、その数に圏域数14を掛けたものである。</p> <p>2ページ目の設問について、前回、無回答が多かったことについて、振り返りはしきれていないが、なるべく無回答がなく分かりやすいように工夫したい。</p>
会長	<p>そこまで具体的な数字でなくても良いのではないか。他にはいかがか。</p>

委員	<p>資料3-3①[介護予防・日常生活圏域ニーズ調査へのご協力のお願い]13ページについて、(4)では自宅以外に落ち着ける居場所の必要性を聞いており、(5)では自宅以外に落ち着ける居場所を聞いている。ここでは、自宅以外に落ち着ける居場所の必要性を聞きたいのか、場所を聞きたいのか。ここでは、居場所を聞くだけでも良いのでは。</p> <p>14ページ目の(8)は、場所を確認したい、知りたいという意図だと思う。ここでは、今行っている場所、ないしは自分は使っていないがこういう場所があると聞きたいのか。答えやすいよう工夫してほしい。</p> <p>13ページ目は意図次第で、必要性を聞きたいのか、今現在あるかどうかを聞きたいのか、どちらでも良いと思う。</p>
事務局	<p>13ページ目(4)に関する設問、もしくは14ページ目(8)に関する問いかけ方、そちらに関して再度設問の意図とどのように聞いたら良いか、事務局内で調整する。</p>
会長	<p>他にはいかがか。</p>
委員	<p>資料3-2[介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、保健・福祉等実態調査 調査項目(案)]の3ページ目のNo.25番で、移動1回につき負担できるのがどのくらいかと同時に、何回あったら良いかという2つの意味もあるかと思う。1ヶ月にいくらまでと考えるかもしれない。買い物や通院が1回で良い人と5回くらいと思う人では、自ずと金額が変わってくると思う。どこまで詳しく聞くべきかも含めて、工夫したら良いのではないか。</p>
事務局	<p>前回の意見も踏まえて、まず、1回という最小単位から一義的に何うことにしている。</p>
会長	<p>聞いた結果をどうするか。設問を増やして聞くのは簡単だが、それをどう還元していくか。何を求めている問題なのか。</p>
委員	<p>有償ボランティアの方をお願いをする時に払うお金の対象になると考えているので、設問はこれで良いと思う。</p>
会長	<p>細かくしすぎると、違う方向へ行きそうなので、これで聞いてみて、どのような回答があるかで考えることでよろしいか。この後も気になるところが出てきたら、事務局に伝えてほしい。大筋はこのような内容ということでした承りいただけるか。この後の修正については事務局に一任でもよろしいか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>

委員	5 その他 委員より、健康体操フェスタについて説明。
事務局	事務局より、地域包括支援センターの名称変更について説明。
事務局	6 閉会 次回開催は、令和5年3月27日（月）、川越市医師会館を予定。